

## ♪音楽センター中部土曜教室「わかばコンサート」ぶらり訪問記♪

日時 2012年5月20日(日) 14:00 開演  
会場 泉の森会館(東京都狛江市)

最初は全員合奏が2曲。まず4拍子で軽快にスイングした「ハロードーリー」、続いて2分ちよつとに編曲されたドヴォルザークの「家路」。この2曲もそうですが、全体の9割は教室の講師、関英昭氏による編曲でした。生徒は、気に入った曲があると気軽に編曲をお願いしているようです。

独奏の一番手は最高齢の男性で「琵琶湖周航の歌」、2番手は始めて数ヶ月の女性の方で「失われた楽園(天空の城ラピュタより)」、二人の演奏は右手のみでピアノでリズムを作る講師とのアンサンブルでした。

受付で頂いたプログラムを見て感心したのは、演奏者と演奏曲について、編曲にも触れながら一人一人、1曲1曲に講師による温かい紹介文が付いていたことです。独奏4番目の「ウィーンわが夢の街」を例にとると、『戦争に出た青年が故郷を夢見る歌。演奏者の思いが伝わる演奏を期待したい。』などの様に載っています。ゆったりとした演奏で、後半の重音が綺麗に流れていて夢見る感じが出ていたと思います。第1部の最後はアコーディオン4台の重奏、モーツァルトの「ロマンス(アイネ・クライネ・ナハトムジーク第2楽章)」、これはバスパートの音が素敵でした。いつまでも耳に残っています。

休憩前に、ゲストが加わってベリーダンスのパフォーマンスが入りました。踊り手が二人で、ギターが二人、ヴァイオリン一人、アコー人の4人のアンサンブルによる伴奏です。曲は軽快な3拍子のスタイルミュゼットともう1曲は「Hava Nagila」というアラブ系の曲でした。最初のダンスは、新体操のリボンの演技のような

ダンス(写真上参照)、2曲目は写真下参照。照明もミラーボールを使いお客さんはびっくりして、しばし目が釘付けになっていました。今年も



また新しい横の繋がりが出来ていました。



第2部はアコーディオンの三重奏でピアノの「天使のミ

ロング」。次はフリーベースでバツハの「イタリア協奏曲第3楽章」そして「魅惑のワルツ」、「愛のあいさつ」と独奏が続きます。シャンソンの「ピガール」は教室生では唯一立奏でした。三拍子のリズムがしっかりして素敵な演奏でした。次の「NANY」、これも三拍子の曲で、分散和音が沢山出てくるのでアコ演奏者の練習教材としても良い曲ですと紹介されています。よく弾き込んでいる感じがします。10番目の「アコーディオニストの夜」この曲も三拍子の曲で分散和音の連続です。二人とも良く指が動いていて感心しました。

三人の講師それぞれの演奏があり最後にもう1度全員合奏で締め括りです。曲はカッチーニの「アベマリア」とJ・シュトラウスのコミカルな「アンネンポルカ」。「アベマリア」は4分ほどの編曲で、曲の紹介文を読んだせいしばし教会の中に入り込んだような静寂の時間を味わいました。(下の写真は「アベマリア」の演奏)

アンコールは、感謝の気持ちを込めて予め用意されていたNHKの朝のドラマで流れた「ありがとう」の演奏でした。(乙津:記)



